

領域実践交流シート

学校名 [花川中学校]

記入者 [高橋 純一]

作成日 平成23年11月24日

<p>見つけた課題</p>	<p>小学校が先行しての指導要領の改訂の話と、前々から前年度の執行状況による今年度の市教委の配分に対して校内での再配分で良いのだろうか、事務職員の一方的な配分で良いのだろうかと考えていたことによる。</p> <p>現実として、何のための、また誰のための配分予算なのかと考えたことからでもある。</p> <p>平成24年度に向けた中学校学習指導要領の改訂に関して、必要なものがないのだろうかとの思いから取組を始めてみたことと全職員からの要求という発想ではあった。</p>
<p>課題解決に向けた経過</p>	<p>前年度の執行状況から今年度の校内予算の配分で良いのだろうかとの考えから、教科、学年、分掌、個人を拘らずに、思いつくのを消耗であろうと備品であろうと何でもよいから書いて出してくださいと言う提案を4月の職員会議で提案し、記名で提出してもらうこととして、連休明けに集約をして、5月の職員会議で結果を公表しての配分とした。</p> <p>全ての要求を網羅しての配分ではあったが、前年度執行の用紙代等については大雑把であるという問題点は残った。</p>
<p>行動する上で見えたこと</p>	<p>提案について、要求の確認をしたりしての配分であったが、希望を聞いてくれたと喜ばれはしたが、一番出てくるであろうと思われる教科から何も出なく、徴収金からみから要求があると思うところからも出なかったりと笛吹けど踊らずの状態でもあった。</p> <p>子どものため、教授活動のためという考えが、忙しさで日常業務に追われる、教員側からは時間的余裕もなく、なかなか年間に何を必要とするとかこの授業の時はこれが必要であるとかを考える余裕もないのが現状であろう。</p> <p>直前になって、これがあるは出てくるが、4月当初に出してくれと言うこと自体が難しいことなのであると思われる。</p>
<p>取り組みの感想など</p>	<p>年度末決算(全購入品目・数量・金額)を付けての提案であったが、決算に対する分析が不足していたと感じます。</p> <p>ただの数字の羅列にすぎなかったのではと反省しています。(事務職員の自己満足)</p> <p>他校の状況、金額は知らせているが、本校と比較しきれない部分もあって、問題点は残りましたし、印刷関連などどのようにすれば意識改革ができるかの課題があり、ただ購入品目・数量・金額を報告するのだけが良いのか、再々配分についてもどのように展開していくかによって、より教育的効果を図れるか、残された課題は山積みである。</p> <p>備品であれば、年度計画により購入していくことは全教職員からの検討しての同意が得られれば可能であるが、突発的な消耗品費に関しては年間を考えてと言うが、予備費的な予算がなければ対応できない部分がでてくる。</p> <p>関連して100%配分の欠点が出てきてもいる。</p> <p>2年連続で行ってきたが、相も変わらず印刷関連は市内で一番の執行率である。</p> <p>本年度(平成23年)、こちらからは事務だよりで知らせておいて、教頭から朝打ちの時全教職員に周知徹底を図ったが、意識する職員はきちんとしているのだが、一部のそこまで達していない職員については、注意していないと何も変わらないこともある。</p> <p>自分自身の力不足もあり、思ったような行動にはなっていない経緯がある。</p> <p>学校運営上において必要な予算として無視できないと部分について、その部分についても認識していく必要もあるのではと考える。</p> <p>減らそうだけではなく、何故これだけの予算が必要なのかをおさえていかなければ市からの一方的な配分予算の金額によっては赤字になる可能性もあると考える。</p> <p>このことから予算要望活動に結びつけていく必要があると考える。</p>